

教科名	理科	週時間数	4時間	学年	3年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス3」 啓林館 副教材 「学習の達成 理科3年」 新学社 最新「理科便覧」 浜島書店				

教科のねらい	自然の事物・現象について、できるだけ身近な例を挙げて自然に対する関心を高め、モデル化によって基本的概念や原理・法則をわかりやすく表し、基礎・基本の定着を図る。観察・実験を行う際には、目的意識を持たせて結果からの考察を行う中で、その規則性や法則を見だし、発見に気づき、まとめる能力の育成を図る。		
授業の進め方	授業は教科書だけでなくプリントを利用し、授業の内容や問題練習をしたり、4人組を基本とした「話し合い活動」を取り入れたりして理解を深めていく。また、定期的な単元テスト以外にもチェックテストなどで、基本的な内容の確認をする。実験・観察は班別で行い、全員が関わられるようにする。		
定期考査	出題方針	授業中に行った内容を中心に、観点別の問題を出題する。 「知識・技能」については、授業で行った実験を中心に目的や安全に行う注意点、自然の事物・現象についての基本的概念や原理・法則の理解や重要語句の意味を問うものを出題する。 「思考・判断・表現」に関しては、基本的概念や原理・法則を説明するような科学的な見方や考え方の問題を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	(2年生の範囲)電流とその利用
		1学期期末	運動とエネルギー
		2学期中間	運動とエネルギー、生命の連続性、
		2学期期末	化学変化とイオン
		学年末	宇宙を観る、3年生までの復習
	主体的に学習に取り組む態度	授業の様子と振り返りシート、自己評価、実験レポートのまとめ方、ファイルの提出 他	
思考力・判断力・表現力	発言・発表、授業の様子、実験レポートのまとめ方、定期テスト 他		
知識・技能	発言・発表、授業・実験・観察の様子、実験レポート、チェックテスト、定期テスト 他		
学習方法 (先生からのアドバイス等)	自然現象と学習内容の結びつきをしっかりと考え、授業で他者と聴き合い、課題についての自分の考えを深める。授業では「なぜそう考えたか」を大切に、根拠の説明を通して自分の意見を深めると共に、他者に思考の道筋を理解させる。定期的の問題演習を行い、基本的な問題に対しての力をつける。評価については、評価方法や授業への取り組み方、勉強の仕方、テストの取り組み方やレポートのまとめ方など具体例を挙げた説明を授業の中で行う。		

学期	月	単元	学習内容 ○は、予定時間数	学習のポイント
1	4	2年生の範囲 電流とその利用	電流の性質(復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・公式などを確認する。 ・静電気について知り、電流の正体について理解する。 ・電流の磁気作用や電流と磁界の関係について理解する。 ・いろいろな力を確認し、その力の表し方を学ぶ。 ・速さとその求め方を確認する。また、運動の調べ方を学ぶ。 ・仕事の求め方、仕事の原理を理解する。 ・エネルギーの総量は保存されることを学び、いろいろなエネルギーが発生することを理解する。 ・現在までのエネルギー資源と新しいエネルギー資源の利点と欠点を理解する。
	5		電流の正体	
	6	運動とエネルギー	電流と磁界	
			力の合成と分解	
	7	仕事とエネルギー	物体の運動	
			多様なエネルギーとその移り変わり	
			エネルギー資源とその利用	
2	9	生命のつながり	生物のふえ方と成長	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の生殖・細胞のふえ方について理解する。 ・メンデルの法則を理解し、その原理を学ぶ。 ・生物の進化について理解する。 ・電解質は水溶液中でイオン化し特有の性質を持つことを理解する。 ・電池は陰極と陽極での電子の移動であることをイオンのモデルを通して理解する。 ・酸性・アルカリ性を示す物体は、水溶液中に水素イオン、水酸化物イオンが存在することを理解する。 ・地球以外の天体の存在を理解する。 ・地球から見た天体の動きから、真の天体の動きを理解する。 ・月と金星の満ち欠けについて学ぶ。
	10		遺伝の規則性と遺伝子	
	11		生物の種類の多様性と進化	
	11	化学変化とイオン	水溶液とイオン	
			電池とイオン	
	12	地球と宇宙	酸・アルカリと塩	
3	1	生物と環境	地球から宇宙へ 太陽と恒星の動き	
	2		月と金星の動きと見え方	
	3		自然界のつり合い 様々な物質の利用と人間 科学技術と人間 人間と環境 持続可能な社会をめざして	